

8月27日 2学期始業式講話（要約）

33日間の夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。

夏休み前に「自立のための夏休みにしてほしい」と呼びかけましたが、何か挑戦できたでしょうか。

2年の風景画講習会・北信越大会への出場・奉仕委員会のグレートヒルズ訪問・吹奏楽部の船まつりの演奏・3年生の防災訓練・PTAの除草作業などできる限りの活動を見させてもらいましたが、皆さん一生懸命に活動していました。すばらしかったです。

私が最近すごいなと思ったことが2つあります。1つは、7月11日（木）の小惑星探査機「はやぶさ2」の小惑星「リュウグウ」への2度目の着陸と、もう1つは8月5日（月）の女子プロゴルフ全英オープンでの渋野日向子選手の優勝です。

「はやぶさ2」は2月22日（金）に「リュウグウ」への1回目の着地に成功し、表面の物資を取ることに成功していました。7月はさらに「リュウグウ」の表面に穴を開け、内部の物資を取る試みでした。非常に困難で、もし失敗したら2月に採取した物資も持ち帰れなくなるという理由から「中止すべき」という意見もあったそうです。私たちには想像がつかないくらいの時間と人材、技術やお金、そして何よりも日本の技術力に対する世界の注目があつた中です。責任者を務めた津田雄一さんは中止の意見を「健全な意見」と受け入れつつ「やらないよりやった方がメリットが大きい」と挑戦することを決断しました。成功した後の記者会見では「今回のミッションは100点満点中1000点」と述べていました。100点満点で1000点はなかなかつけられない点数です。1000点の陰には、しっかりとした準備と自信、仲間との信頼関係、そして失敗を恐れないチャレンジ精神があつたのでしょう。来年の12月に地球に戻ってくるそうです。楽しみです。

もう一つは渋野日向子さんです。若干20歳で、初めての海外での大会が、全英女子オープンだったわけです。世界の一流選手が集まるメジャー大会での日本人の優勝は樋口久子さん以来42年ぶりだったそうです。最終日の4日目をトップで迎えましたが、私は「プレッシャーがかかる中で崩れるだろう。5位くらいかな。」と思っていました。前半で崩れ始めトップから2打差で迎えた後半の12番ホール。グリーンの手前に池があり、多くの選手が安全に池の前に短く打つ作戦を選んでいたら、渋野選手はためらわずに池越えを狙って思い切り打って勝負に出ました。そして見事に成功しました。最後のホールの5mの長いパットも世界が注目する中で強気に攻めて、一発で仕留めました。4日間を通じて笑顔を絶やさず話題になりましたが、それ以上に、勝負どころで表情が変わり、強気に攻めていたことが印象的でした。笑顔は世界共通のコミュニケーションと言いますが、観客を味方につけながら、いざという時に挑戦する芯の強さに驚きました。

私はこの2つから改めて「準備と挑戦」の大切さを感じました。3階の階段に本田宗一郎さんの「大切なのは失敗をしないことではない。挑戦することだ」という格言が掲示されていますが、まさにその言葉を具現化した挑戦だったと思います。

また、様々な思惑がぶつかり合う今の世界の中で、日本人の和の心（チームワークを大切に作る心）、最先端技術、地道なものづくり、若い人のチャレンジ精神に、感動と誇りも感じました。

さて11日後に体育祭が控えています。体育祭の後には中間テストが、その後は郡市の新人大会、学習発表会が控えています。2学期は様々な行事が行われる学期です。行事を成功させることによって皆さんはより成長します。「準備と挑戦」この2つを大切にして、すばらしい2学期にしていきましょう。